事業所名： グループホーム妙水苑

作成日：令和2年　10月　18日

2　目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	地域が高齢者世帯が多い傾向にある。今後、事業所として地域交流の活性化、認知症予防の啓発を強化していく必要がある。また新型コロナウイルス流行下における認知症カフェ（陽だまりカフェ）の運営方法についても検討を行う必要がある。	地域活動に積極的に積極的に参加することで地域交流の活性化、認知症の理解・予防の啓発を行える。	①新型コロナウイルス流行下での代替案の検討。情報誌の発行・開催場所の検討・ネットの活用等。 ②他事業所、市との認知症カフェ開催状況等の情報交換。 ③地域行事への参加の推進。	6か月
2	6	身体拘束廃止の目標を今年度は達成することができたが、依然として転倒等のリスクの高い利用者様が多数入居されている。身体拘束廃止への継続的な取り組みのため、職員への指導を強化していく必要がある。	身体拘束廃止の継続的な取り組みを行う。職員への指導・教育を徹底する、また身体的拘束適正化検討委員会、運営推進会議の開催を通じ、各メンバーから様々な視点から助言を受けることで、身体拘束をしない介護、介護の質の向上に役立てられる。	①身体拘束勉強会の定期開催。（マニュアルの周知、事例検討の実施） ②身体的拘束適正化検討委員会の定期開催。メンバーを随時検討。メンバー間で助言を積極的に受けることで職員全体の意識付けを図る。 ③運営推進会議での活動状況の報告を行う。第三者からの助言を受ける。	6か月
3	33	看取りのニーズが高まっている。利用者様、家族様の要望に応じた柔軟な対応が必要である、また看取りについての職員への指導、メンタル面のケアにも配慮を行っていく必要がある。	医療との連携強化と職員の看取りへの知識を高めることで、より柔軟なニーズに応じた看取りを実施できる。	①医療機関との連携。情報交換を積極的に行う。ケース応じた対応について積極的に助言を受ける。 ②緊急時の連絡体制・対応の再確認。職員への周知。 ③職員への看取りの教育。定期勉強会の開催。 ④カンファレンスの実施。看取り実施後の全職員での振り返りの実施によるメンタル面のケア、介護の質の向上。	6か月
4	34	インシデントが多発している。また大きな怪我につながるケースも数件あった。職員全体でリスクマネジメントの知識を向上させ、観察力を養い、再発予防策を多様な視点で検討できる能力を身につける必要がある。	リスクマネジメントの教育の強化。観察力を養い、危険行動を察知し、早急に対応できる能力を身につけられる。また、事故発生時の連絡体制を再確認、整備することで安全管理体制をつくる。	①リスクマネジメント勉強会の定期開催。事例検討、KYTの積極的実施。より実践的な勉強会の内容の検討。 ②インシデント・アクシデント報告書の共有。再発防止策の評価、見直しを定期的に行う。 ③事故発生時の連絡体制の再確認と周知。 ④医療関係者等、多職種からの助言を積極的に受ける。医療連携等の積極的活用。	6か月
5					か月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

公益社団法人青森県老人福祉協会